

『ばらの騎士』組曲とオペラ全曲の対応表

	組曲の練習番	オペラ全曲の練習番号と場面の説明
		* 数字は練習番号 (+) はそこからの小節数、(-) はその前に数えた小節数
第1幕	冒頭 (12-1)	序奏 (練習番号12-3まで)
	【この後、第1幕からの採用はありません】	12-3 : 幕が開くと舞台はマルシャリンの寝室 マルシャリンとオクタヴィアンの目覚め。黒人の小姓が朝食を出す。 オックス男爵、結婚するので『ばらの騎士』を紹介してもらいに来る。 小間使いに変装したオクタヴィアンに男爵がちょっかいを出す。 マルシャリンへの来訪者が多数来る。 皆が去って、マルシャリンひとり年老いていく自分を見て悲しむ。 オクタヴィアンが戻ってくるが、マルシャリンは彼を帰してしまう。
第2幕	12	ファーニナル家、「ばらの騎士」が来るというので家中大わらわ。 当主ファーニナルとその娘ゾフィーは居てもたっても居られない様子。 20 : 侍女のマリアンネと家令が「ばらの騎士」の馬車到着を報告。
	16+3	24+3 : オクタヴィアンがばらの花を持って登場。
	【詠唱が多いところなので採用なし】	オクタヴィアンが「ばらの騎士」としての口上を始める。オクタヴィアンがゾフィーに銀のばら (造花) を手渡す。 二人のやり取りの中で、ゾフィーがばらの香りに気付く。
	17+3	29+3 : オクタヴィアン「ペルシャの薔薇油を垂らしました」と応える。 * オーボエのソロ (組曲の練習番号17-1) が美しい。
	18	30 : ゾフィー「まるで天の、この世のものでなく、聖なる楽園のばらのよう・・・」
	19-20	31-32 : 歌うゾフィーを見つめるオクタヴィアンに恋の予感? 芽生え? * トランペットのソロ (組曲の練習番号19)、聴かせどころです。
	21-23	33 : ゾフィーとオクタヴィアンの二重唱
	【二人の会話のシーンのため採用なし】	38-2 : 銀のばらを箱に収め、二人は座ってぎこちない会話を始める。 オックス男爵登場。男爵から失礼な扱いを受けたゾフィーは怒り、悲しむ。 男爵とファニナルは別室へ。男爵の従者が騒ぎを起こす。 二人になったオクタヴィアンとゾフィーが愛を語らう。
	26	129 : ヴァルツァッキとアンニ-ナが、抱擁し接吻する二人を見つけて引き離し、大声で男爵を呼ぶ。男爵登場。(133+2まで)
	【ドタバタのシーン、採用なし】	133+2 : 男爵、二人に説明を求める。男爵はオクタヴィアンを小馬鹿にしてゾフィーの腕を掴んで連れて行こうとするが、剣を抜いたオクタヴィアンに上腕を切りつけられる。男爵は自分の血を見るのは苦手だと騒ぎ立てる。 ファニナルはオロオロし、男爵にワインを差し出す。男爵は次第に機嫌を取り戻す。医者が来て治療し、男爵は眠くなる。

	30+3	236+3：有名な『ばらの騎士のワルツ』。アンニーナが手紙を持ってくる。これは逢引きの手紙で、第3幕で酒場に男爵をおびき出す。（途中240から
	35	242：アンニーナが手紙を代読する（＊ヴァイオリンのソロ）。
	41	248：アンニーナは男爵に心づけ（駄賃）を求める。 男爵はますます上機嫌になる。「僕となら、どんな夜も君には長すぎない・。」（251+1まで）
	【採用なし】	251+3：男爵、「後で渡す」とアンニーナを追っ払う。
	44	253-1：男爵、有頂天になって踊りだす。
	45	255：男爵「どんな夜も君には長すぎない、君には長すぎない…」、手紙を眺めつつご満悦のところ幕となるが、組曲は最後4小節カット。
☆	48	2：第2幕冒頭部分に戻る（ゾフィーが舞台に登場）。（3+3まで）
第3幕	【幕開けから 終幕近くまで 採用なし】	レストランで男爵をとっちめる打ち合わせとその準備をしている。 手紙で誘い出された 男爵がマリアンデル（オクタヴィアンが変装）と密会をする。すると化物が現れ、男爵を驚かす。 アンニーナが男爵の元妻だと称し、子供たちに「パパ、パパ」と呼ばせる。 警部登場、男爵を取り調べる。 ファニナルとゾフィー登場。ファニナルは花婿のありさまを見て卒倒。 マルシャリン登場、男爵に引き上げるよう勧告。請求書を山ほど突きつけられて男爵は退散。
	【採用なし】	284：マルシャリン、オクタヴィアン、ゾフィーの三人だけが残る。
	50	【コンサート等でたびたび取り上げられる名曲です】 285：三重唱、マルシャリンはオクタヴィアンがゾフィーを愛していることを察する。 マルシャリンとゾフィーの対話。ゾフィーへ「お父様（卒倒したファニナル）のことはまかせなさい」と言う。
	59	294：マルシャリンそっと退場。
	60+5	295+5：二人きりになったゾフィーと オクタヴィアンが抱擁。
	61-3	297+3：ゾフィーとオクタヴィアンの二重唱（298-1まで：残念ながら組曲では途中でカットされています）。
	【採用なし】	300：ファニナルとマルシャリンが登場。ファニナル「こういうものですね、若い人達は！」、マルシャリン「そう、そうですね。」と言ってすぐに退場。
	62	305：4小節の間奏。この後オペラの終幕までの音楽はカット。
☆	62+5	第3幕の男爵が退散するところに戻る。（256-1まで） 246+5：男爵「レオポルト、行くぞ」と叫んで従者を連れて帰ろうとする。
	72	組曲のために作られたコーダ。
		☆ オペラの進行と順序が違う箇所